



内科(内分泌・膠原病)

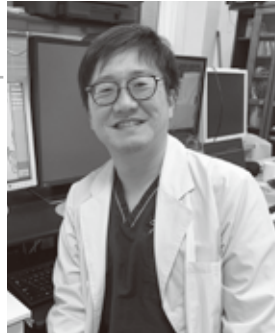
北井 順也 医師

国保京丹波町病院 水曜日、木曜日の内科予約診

がん検診

がん検診の意義

現在、日本人の2人に1人が「がん」になり、4人に1人が「がん」で亡くなっています。しかし、皆さんが適切にがん検診を受けることで、がんによる死亡を今よりも確実に減らすことができます。がん検診の真の目的は、単にがんを見つけることだけではありません。「症状がないうちに早期発見・早期治療を行い、がんで亡くなることを防ぐこと」にあります。



検診により死亡率低下が証明されている5つのがん

特に、胃がん、子宮頸がん、肺がん、乳がん、大腸がんの5つは、検診と治療によって死亡率が低下することが医学的に証明されています。一方で、子宮体がん、前立腺がん、甲状腺がん、肝胆膵腎がんなどは、現在のところ「自治体などの対策型検診として行うことで死亡率が減少する」という十分な根拠が確立されていません。そのため、まずは「国が推奨する5つのがん検診」を受けることを検討してみてください(表参照)。

国が推奨するがん検診の一覧

種類	検査項目	対象年齢	受診間隔
胃がん	問診に加え、胃部エックス線検査 または胃内視鏡検査のいずれか	50歳以上 ※当分の間、胃部エックス線検査については40歳以上に対し実施可	2年に1回 ※当分の間、胃部エックス線検査については年1回実施可
子宮頸がん	問診、視診、子宮頸部の細胞診および内診	20歳代	2年に1回
	問診、視診、子宮頸部の細胞診および内診 問診、視診およびHPV検査単独法	30歳代 ※市区町村で実施する検査項目を要確認	2年に1回 5年に1回 ※罹患リスクが高い者については1年後に受診
肺がん	質問(問診)、胸部エックス線検査 および喀痰細胞診	40歳以上 ※喀痰細胞診については原則として50歳以上の重喫煙者(喫煙指数600以上の者)のみ	年1回
乳がん	質問(問診)および乳房エックス線検査(マンモグラフィ) ※視診、触診は推奨しない	40歳以上	2年に1回
大腸がん	問診および便潜血検査	40歳以上	年1回

主要な検診と選び方のポイント

胃がん検診

診断精度は、バリウム検査よりも胃カメラの方が高いです。検査時の負担は少し伴いますが、バリウムでは見つけられない微細な病変や、胃がんリスクとなる「ヘリコバクター・ピロリ菌」の感染有無も診断可能です。ピロリ菌は無症状でも感染していることがあり、早期の除菌治療が胃がん予防につながります。

大腸がん検診

便潜血検査は50歳以上であれば毎年推奨されています。これに加え、もしご家族に大腸がんを患った方がいらっしゃる場合は、一度大腸カメラを受けることも検討してください。

肺がん検診

これまでタバコを多く吸われていた方は、通常の胸部エックス線検査に加え、痰を調べてがん細胞の有無を確認する「かくたん喀痰細胞診」も併せて行うことをおすすめします。

がん検診には複数の検査方法がありますが、ご自身のリスクに応じた適切な方法を選ぶことが大切です。当院で実施可能な検査もありますので、「自分はどの検査を受けるべきか」など、お気軽にご相談ください。